

来週の市場とレート予想

	11/13(月)	11/14(火)	11/15(水)	11/16(木)	11/17(金)
無担保O/N			△0.086%	~ 0.001%	
銀行券	+ 1,100	+ 1,000	トシ	トシ	トシ
財政他	△ 20,400	△ 3,000	△ 2,000	△ 27,000	△ 1,000
資金需給	△ 19,300	△ 2,000	△ 2,000	△ 27,000	+ 1,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行(30年)	源泉税揚げ	国債発行・償還(2年)	国債発行(5年)	
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,300 CP等買入 △ 100 国債補完供給 + 200				
オペスタート	共通担保(全店) + 1,300 ETF買入 + 100	国債買入 + 7,100 短国買入 + 1,000			
(日本)	企業物価指数(10月分、日銀)	営業毎旬報告(11月10日現在) 保有する国債の銘柄別残高 国庫短期証券の銘柄別買入額	国内総生産(7-9月速報、内閣府)		
(海外)	米 財政収支(10月) 米 フィリピン首脳会談 欧 黒田総裁が講演(チューリッヒ) ASEAN首脳会談(マニラ)	米 セントルイス連銀講演 米 アトランタ連銀総裁講演 欧 日、欧、米、英中銀総裁がパネル討論会に参加(フランクフルト) 欧 ユーロ圏GDP(7-9月、改定値)	米 消費者物価指数(10月) 米 NY連銀製造業景況指数(11月) 英 雇用統計(10月) 英 シカゴ連銀総裁がパネル討論会に参加(ロンドン)	米 新規失業保険申請件数(前週分) 米 フィラデルフィア連銀製造業景況指数(11月) 米 ダラス連銀総裁講演 米 サンフランシスコ連銀総裁講演	米 サンフランシスコ連銀総裁会見 欧 ドラギ'ECB総裁講演(フランクフルト)

＜インターバンク市場＞

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.050 ~ △0.025
SPOT 2M	△0.030 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.020 ~ 0.050
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.080

＜インターバンク＞

日銀当座預金は週初367兆3,200億円で始まり、国債買入や短国買入などを主因に8日には369兆円台まで増加した。その後は368兆円台で推移し、368兆円8,500億円で越えた。無担保コールON加重平均金利は週初△0.046%から始まり、その後は週を通して△0.045%~△0.044%の狭いレンジで推移した。ターム物は、1W~2Wのショートタームを中心に、主に△0.04%台~△0.03%の出が見られた。9日に日銀が公表した、金融政策決定会合の主な意見(10月30、31日分)では片岡審議委員が追加緩和の必要性を主張したことに対し、他の審議委員からは「追加緩和はプラス効果より副作用の方が大きい」などの意見が挙がった。また、ETF買入などのリスク資産の購入について副作用を懸念する意見が挙がったことも明らかになった。来週の予定としては、国内では7-9月期GDPの発表(15日)、国外ではASEAN首脳会議(13日)やドラギ'ECB総裁の講演(17日)が挙

＜オープン市場＞

CP3M(a-1+)	△0.005 ~ 0.000
TDB 3M	△0.150 ~ △0.300
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

＜C P＞

今週の入札発行総額は約4,600億円で、週間償還額の約4,200億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。リース等ノンバンク銘柄のロール案件や、電機・鉄鋼等の業態でのまとまった額の発行が見られた。発行レートは月初から若干上昇傾向にあり、ごく薄いマイナスから0%近辺での出合い。来週の償還額は、4,200億円程度となっている。5・10日発行が見込まれることから、償還額を上回る発行を予想する。発行期間については、先週同様に一般事業法人で12月末までの発行、ノンバンク関連銘柄で年越えの発行中心となるだろう。発行レートは、引き続き0%近辺での推移を予想する。16日に、CP等買入オペが2,000億程度オファーされる予定。

＜TDB＞

8日に行われた国庫短期証券6M第719回債の入札は最高落札レート△0.2276%(前回債△0.1603%)、平均落札レート△0.2376%(同△0.1643%)と前回から大きくマイナス幅を拡大した。また、9日に行われた3M第720回債の入札も最高落札レート△0.2549%(前回債△0.1842%)、平均落札レート△0.2780%(同△0.1897%)と堅調な結果であった。週末のセカンダリー市場は、3Mが△0.235%程度、6Mが△0.22%程度の出が見られた。

＜レポ＞

足許GCは先週末同水準の△0.14%~△0.15%から始まり、週央にかけて概ね△0.10%台前半の出合いが続いた。TDB3Mの発行日となる13日受渡しでは△0.11%近辺まで上昇。週末には国債・国庫短期証券買入オペがオファーされたがレートが低下する展開とはならず、△0.10%~△0.105%で多く取引された。SC取引では、5年133回債が8日の国債買入オペ後タイト化。△0.20%台半ば~後半の出合いとなったが、週末には△0.10%台半ばまでレートが上昇した。10年348回債は週を通して概ね△0.15%近辺で推移した。他2年380・381回債、10年336・340・341・342・346・347回債、20年161・162回債、30年55・56回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。